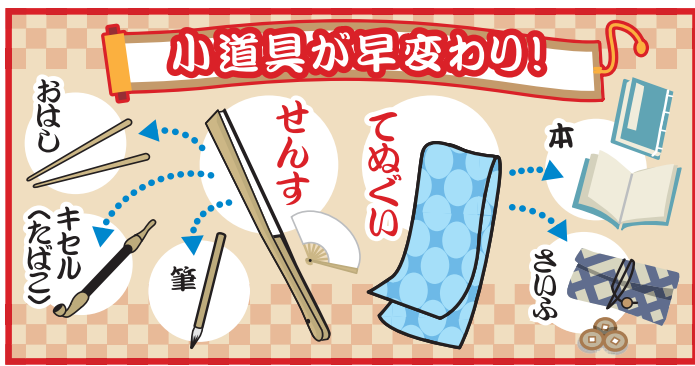


みんなも落語に親しもう 仙台出身・春風亭与いちさん

生で見ると一体感体験して

年末年始の演芸番組を見て、落語に興味を持った人はいるかな。でも



「なんだか難しそう」と思っていない？ 仙台市出身の落語家、春風亭与いちさんは「先入観抜きに、まずは聞いてみて」とすすめてくれます。

「落語は親しみやすい古典芸能です」と与いちさんは話します。演目のあらずじは受け継がれているけど、現代の言葉遣いだから聞き取りやすい。その上、会場の雰囲気に合わせて、落語家が演じ方をアレンジし、お客さんを楽しませてくれるんだ。



落語は生で体感してほしいという春風亭与いちさん。「面白かったら次はぜひ友達を連れてきて、落語を広げて」と語る

高座に居るのは落語家1人。さまざまな登場人物を次々と演じ分けるんだ。子どものキャラクターならなら大人を見上げるように話し、女性ならやわらかいしぐさで、特徴を付けるそう。与いちさんはお酒が飲めないから、宴会の様子を観察して酔っぱらいの演技を身に付けたそうです。

使う小道具は必要最小限。扇子はお箸や筆に、手ぬぐいはお財布や本に見立てて使う。巧みな演技で、まるで本物のように見えるんだ。テレビやインターネットでも落語は見聞きできます。でも、与いちさんは「ぜひ生で見て」と言います。

「落語家がしゃべり、お客さんが笑い、その反応を見てさらに話し方を工夫し、一緒に空間を作り上げていく体験してもらいたい。近くで落語会があれば行ってほしいんです」

子どもにおすすめの演目を、挙げてもらいました。「牛ほめ」と「転失気」です。「古典芸能だけど、落語家1人いればできるのが落語」と与いちさん。依頼があれば、学校で落語を披露したいそうです。

小学生にもおすすめ演目

牛ほめ
おっちょこちょいの与太郎。父の提案でおじさんの新築の家をほめに行くが…

転失気
知ったかぶりのおしょうさん。お医者さんの言った「テンシキ」を分かったふりをして…

学力UPのキは国語力!!

河北新報のコラム「河北春秋」を活用した学習法をご紹介します。ベテラン記者が執筆した文章を読むことで、豊かな言葉や表現が身につきます。また句の話題や時事問題にも強くなります。

3ステップ

STEP 1 基礎力アップ
書き写す
「河北春秋」の文字数は約500字。書き写すことで、作文力や読解力、漢字力といった「国語力」が向上します。また、分からない単語を調べると語彙力もアップします。

STEP 2 論説文対策
100字で要約する
「河北春秋」の要約は論説文対策にピッタリ。読み解いて分かりやすく伝える文章の練習になります。

STEP 3 小説問題対策
自分の意見や感想を書く
自分の考えを50字以内で書きましょう。小説問題は文章の行間を読み、自分の考えを制限字数内で簡潔にまとめる練習が役立ちます。

チョイ読みで時事力UP
入試では、新聞記事を使った出題が増加傾向。新聞をめくり「見出しだけ」チェックしましょう。世の中の動きを効率よく知ることができます。

「河北春秋」はここ!

新聞を 活用して
差をつけよう!

まずは1週間お試ください

ご希望の方に、「河北春秋書き写し1週間お試し版」をお届けします。また、河北新報をお読みでない場合は、新聞も1週間お届けします。右の二次元コードよりお申し込みください。